言語文化教育研究学会　第2回年次大会

「多文化共生」と向きあう

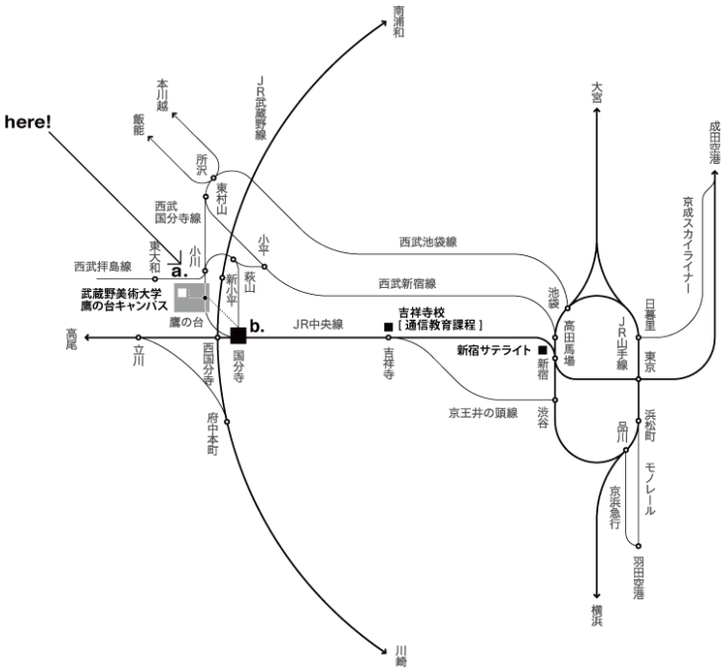
日時　2016年3月12日（土）、13日（日）

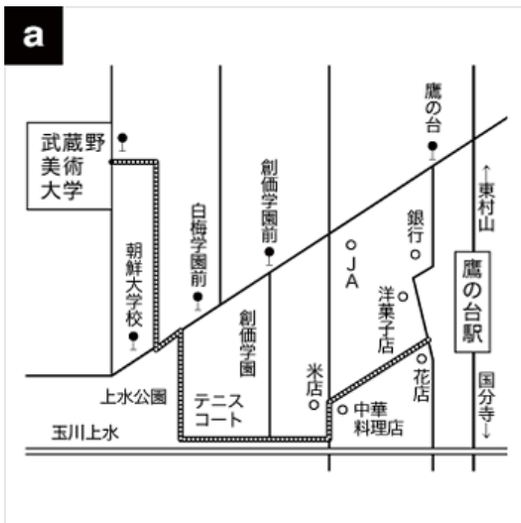
会場　武蔵野美術大学　鷹の台キャンパス

ALCE 言語文化教育研究学会
Association for Language and Cultural Education

■ アクセス方法

武蔵野美術大学鷹の台キャンパス
〒187-8505　東京都小平市小川町 1-736

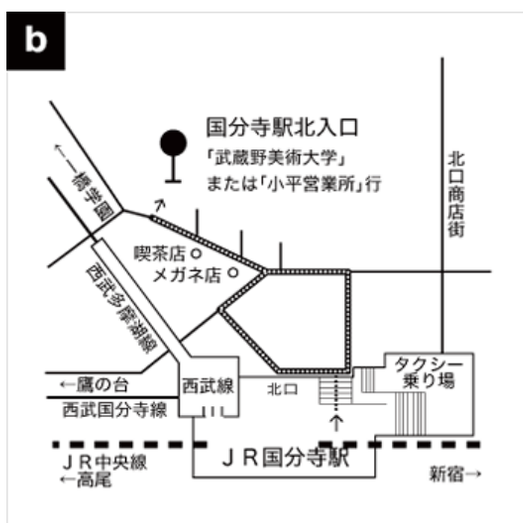




a. 西武国分寺線「鷹の台」駅下車　徒歩 18 分
JR 中央線から
「国分寺」駅乗換、「東村山」行（2 駅目）
西武新宿線から
「東村山」駅乗換、「国分寺」行（2 駅目）

■ 西武バス発車時刻予定表

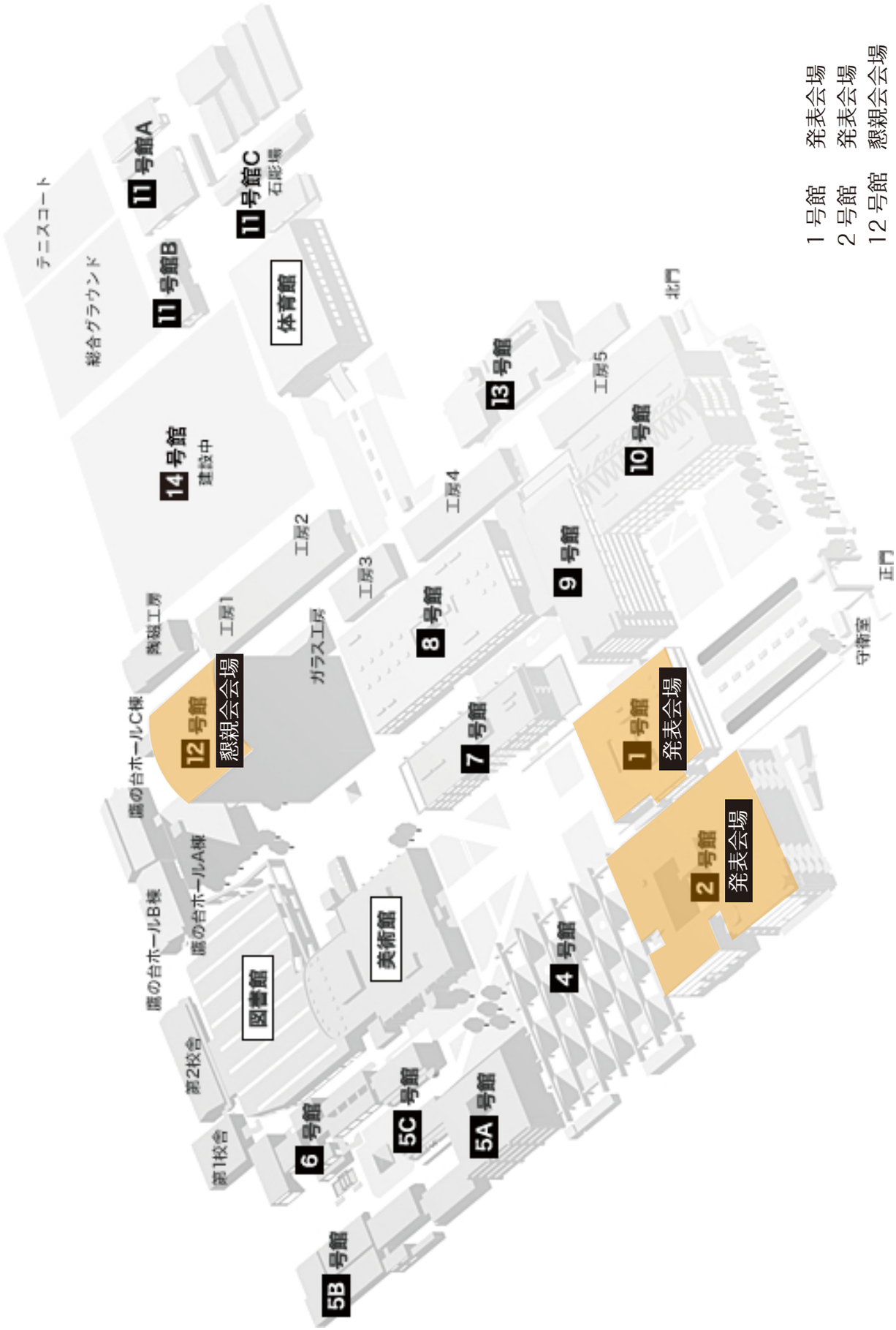
行	武蔵野美術大学	国分寺駅北入口
7	30　56	25　58
8	10　25　50	24　41　54
9	05　20　35	09　33　48
10	00　15　30　55	04　24　38
11	20　35　50	03　23　33　48
12	05　15　31　45	00　14　29　49
13	00　15　35	04　18　29　43　55
14	00　20　40	09　29　49
15	00　20　33　55	10　29
16	10　35　55	01　23　43
17	10　32　54	01　28　44
18	10　30　50	03　24　59
19	21　35　45	19　44
20	01　15　43　51	18　40
21	05　43	13　35



b. 西武バス「武蔵野美術大学」停留所　下車すぐ
JR 中央線
「国分寺」駅北口徒歩 3 分、
「国分寺駅北入口」停留所より（上 b 図参照）
「武蔵野美術大学」行　または
「小平営業所」行に乗車（バス所要時間：約 20 分）

■ 会場案内

① 学内マップ

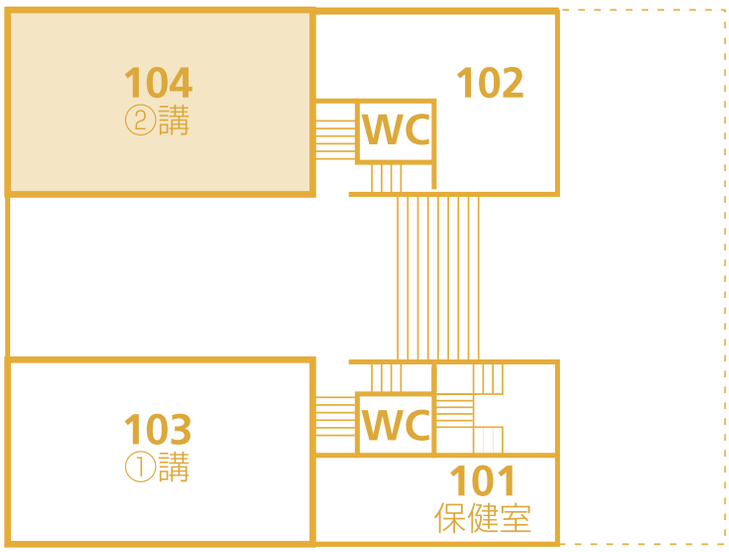


1 号館　発表会場
2 号館　発表会場
12 号館　懇親会場

② 会場マップ

1 号館

104　開会式、総会
シンポジウム①
フォーラム③
シンポジウム②
閉会式

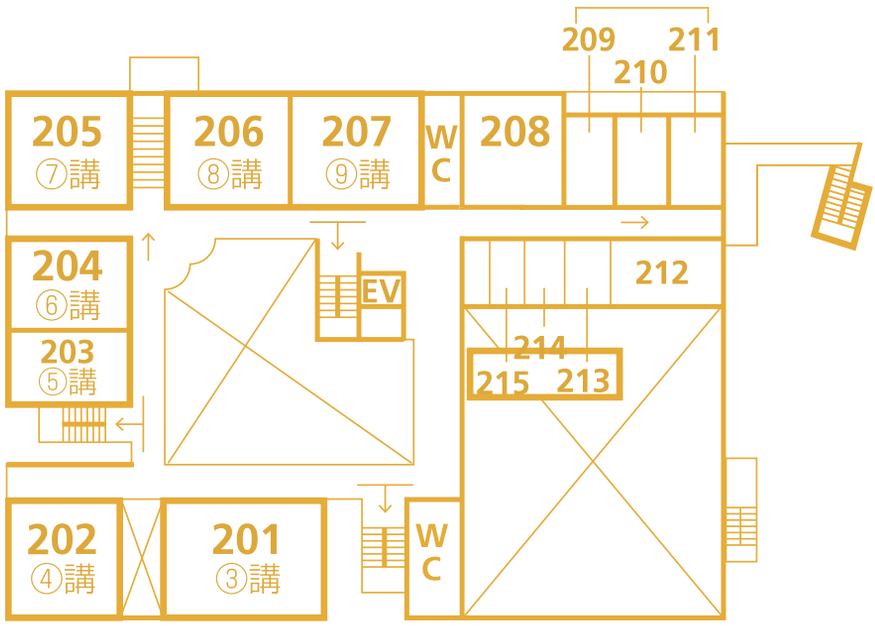


1F

2 号館

206　口頭発表（第 2 会場）
207　口頭発表（第 3 会場）

205　ポスター（第 2 会場）
204　受付、クローク
弁当販売、
談話コーナー、書籍販売
203　大会実行委員控え室



2F

202　ポスター（第 1 会場）
フォーラム①
フォーラム④
201　口頭発表（第 1 会場）
フォーラム②

■ 大会参加者へのご案内

◇受付

2 号館 2 階 204 教室が受付となります。
大会第 1 日目は、9 時より、第 2 日目は、9 時半より受付を開始します。
会場内では、受付時にお渡しするネームプレートを必ずお付けください。

◇参加費用

会員：1000 円　一般：2000 円

◇談話室・クローク

2 号館 2 階 204 教室が談話室・クロークとなります。なお、貴重品は、
預かりかねますので、ご了承ください。

◇総会

第 1 日目の 12 時 20 分から 1 号館 1 階 104 教室にて開催いたします。
総会は、昼食を食べながら行いますので、昼食をご持参ください。

◇昼食

大学近隣には、レストラン、コンビニの数が限られています。
お弁当をご持参することを推奨します。
また、事前申込により、弁当販売も行います。申し込み方法は、別途
学会ホームページに掲載します。（http://alce.jp/annual/index.html）

◇懇親会

第 1 日目の 18 時 30 分より、12 号館 8 階談話室 MAU にて開催いたします。

◇書店の展示

2 号館 2 階 204 教室にて、書店の展示を行います。
どうぞご利用ください。

◇予稿集

当学会では、予稿集の印刷を行っておりません。学会ホームページ
（http://alce.jp/annual/index.html）よりダウンロードの上、ご持参ください。
なお、予稿集は 3 月初旬の公開を予定しております。

1日目：2016年3月12日（土）

9：00	受付開始			
9：30−9：50	開会式（1−104）			
10：00−10：30	口頭発表			ポスター発表
	第1会場 （2−201）	第2会場 （2−206）	第3会場 （2−207）	10：00−12：00 （2−202，2−205） ＊「◆ポスター会場」を参照。
	①教師の発問に対処する学習者間の私的相互行為―初級日本語の一斉授業におけるケーススタディ――（佐野真弓：関西学院大学）	②親密関係構築を巡る身体感覚の感染：ジュルジュ・バタイユの「神」の概念に注目して（山田英太：早稲田大学）	③Life（生・生活・人生）との出会いがもたらすもの―日本語教育実践「日本での出会いを語る・書く」における試みから―（古賀和恵：早稲田大学）	
10：35−11：05	④短期海外研修による学生の意識の変化：試行的ナラティブ分析（鈴木栄：湘南工科大学）	⑤情報を意味づけるコミュニケーションとは―活動型教育の成立条件を考える―（李暁燕：九州大学）	⑥「からだからうまれくることば」を問う―即興劇の俳優たちとの協働を通して―（宮岡余里子：Creative Education	
11：10−11：40	⑦行き場のない欲望：ある日本人（非）英語学習者のナラティブから見えてくること（吉田孝子：横浜商科大学）	⑧14歳の頃出会った日本語と私―10年後の語りから―（工藤理恵：アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター）	⑨「多文化共生社会」を生きにくくしているものは何か―コミュニティへの「アクセス」という観点から考える―（平澤栄子：インターナショナル・スクール オブ ビジネス）	
11：45−12：15	⑩言語文化圏を移動した親の当該社会での位置取りから言語教育観を探る―カナダ永住を選択した日本語使用家庭に焦点を当てて―（秋山幸：早稲田大学）	⑪「多文化共生」と真に向き合うための「リフレーミング」の発想（松本裕典：静岡日本語教育センター）	⑫高等学校における韓国語教育を支える基盤について―教師の語りからの考察―（澤邊裕子：宮城学院女子大学）	

12：20－13：00	総会（1－104）			
13：20－13：50	口頭発表		フォーラム①	
	第１会場 （2－201）	第２会場 （2－206）	（2－202）	
	⑬国語科教材と集合的記憶―『スーホの白い馬』はなぜ“名作”たりえたのか―（横田和子：目白大学）	⑭「複言語・複文化主義」のヨーロッパをこえた可能性―その解釈の変遷―（山川智子：文教大学）	13：20－15：20 共に生きている気がしない「多文化共生」のゆくえ―多様性を自分ゴトとして「語る」・「聴く」・「共有する」―（佐藤貴仁：早稲田大学，えんどうゆうこ：早稲田大学，鄭京姫：早稲田大学，福村真紀子：「にほんごあいあい」主宰，松尾慎：東京女子大学，ロマン・パシュカ：神田外語大学）	
13：55－14：25	⑮統合情報理論からの意味論構築の試み―ことばと言語教育に関する基礎的考察―（柳瀬陽介：広島大学）	⑯日本語教師が学生との語りを通して学んだこと―韓国人留学生のライフストーリーから―（重信三和子：東京国際大学）		
14：30－15：00	⑰市民性形成とことばの教育に関する理論的枠組み（細川英雄：言語文化教育研究所八ヶ岳アカデメイア）	⑱福岡県の日本語学校に通うネパール人学生のライフストーリー研究―「貴重な戦力」として働くネパール人学生のアルバイト生活とは―（岩切朋彦：西南学院大学）		
15：30－18：00	シンポジウム①（1－104）			
	「多文化共生」に対する私のとりくみ―多様なジャンル，アプローチのセッションから語る「多文化共生」の未来 パネリスト　杉山春：ルポライター，田室寿見子：パフォーマンス・ユニット Sin Titulo 代表， 藤田ラウンド幸世：立教大学 コーディネーター・司会　神吉宇一：長崎外国語大学			
18：30	懇親会			

2日目：2016年3月13日（日）

9：30	受付開始			
10：00−12：00	フォーラム②	フォーラム③	フォーラム④	
	第1会場 (2−201)	第2会場 (1−104)	第3会場 (2−202)	
	多文化共生社会のための言語教育における芸術の意義（飛田勘文：桐朋学園芸術短期大学，中山由佳：早稲田大学，横田和子：目白大学）	委員企画：多文化共生社会におけるキャリア形成のあり方（藤井美香・野俣恭子：公益財団法人横浜市国際交流協会，井草まさ子・岸野千花子・武一美：NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ）	言語教育の「商品化」と「消費」を考える−2016年7月シンポジウムへ向けて−（瀬尾匡輝：茨城大学，佐野香織：早稲田大学，瀬尾悠希子：大阪大学大学院，米本和弘：東京医科歯科大学）	
12：00−13：00	昼休み			
13：00−15：30	シンポジウム②(1−104)			
	「多文化共生」と多様性—教育に何ができるのか パネリスト　宇都宮裕章：静岡大学，南浦涼介：山口大学，山西優二：早稲田大学， ヤン・ジョンヨン：群馬県立女子大学 コーディネーター・司会　佐藤慎司：プリンストン大学			
15：30	閉会式（1−104）			

◆ポスター会場

1 日目：2016 年 3 月 12 日（土）

10：00−12：00	ポスター発表	
	第 1 会場 （2−202）	第 2 会場 （2−205）
	①第二言語使用者の使用言語による心持ちの変容と教育現場におけるその活用の可能性（東本裕子：横浜商科大学）	⑦日本語学習者がコミュニティ参加型プロジェクトを通して考える自分の将来（柴田智子：プリンストン大学）
	②日本語学習のよい締めくくり方を考える－卒業を間近に控えた日本語専攻フランス人大学生の作文を基に（原伸太郎：東京福祉大学）	⑧日本語交流会運営の目的とあるがままの場―交流会運営者が向き合うものを探る―（式部絢子：北海道大学）
	③多文化共生社会における「当事者視点の支援」の再考―「在日外国人家庭における未就学児多言語教育ワークショップ」のふりかえりより―（徳永あかね：神田外語大学，吉田千春：明治大学大学院，ゴロウィナ・クセーニヤ：東京大学，菊地真弓：イクリスいちかわ，安藤陽子：多文化共生子育て情報局（イクリス））	⑨教員養成大学における国内学生と留学生共修による言語文化教育の実践（和泉元千春：奈良教育大学，岩坂泰子：奈良教育大学）
	④ある補習校教員のライフストーリーから見た実践の構築と変容（瀬尾悠希子：大阪大学大学院）	⑩「相互理解」を目指した日本語ボランティア講座の成果と課題―質問紙調査の結果から見る受講者意識の変化から―（犬飼康弘：ひろしま国際センター）
	⑤多文化共生を目指す地域日本語教室―共感を生み出す場のデザイン（西山陽子：横浜国立大学，長嶺倫子：横浜国立大学）	⑪「共に生きる」「日本語教育」は誰のためのものか―元日本語教師の海外での実践から―（高井かおり：明星大学）
	⑥大学教員が留学生への教育実践を語る中から見えてくるもの（松本明香：東京立正短期大学，小笠恵美子：東海大学）	⑫オンライン日本語クラブにおける媒介としての「人工物」が活動の組織化に果たす役割―ロシア・カザン日本語クラブにおける実践活動より―（前田朝子：東京女子大学大学院）